



紹介者

安田 結子

ボードアドバイザーズ
取締役副社長

浜 直樹

富士フイルムビジネスイノベーション
取締役社長CEO



ラグビーの恩師の教えと経営の原点

私は学生時代、ラグビーに熱中していた。恩師は、故・上田昭夫さんだ。トヨタ自動車に勤める傍ら、私が所属する慶應ラグビー部の監督を務め、週末や祝日にボランティアで指導してくださった。大変厳しい方だった。

同期は40名以上いたが、激しい練習に耐えきれず辞めていき、最終的に残ったのは25名。その中には玉塚元一さん（現ロッテホールディングス社長）もいた。試合に出場できるのは100名中15名と狭き門であった。

4年生の時、上田さんから両親に一通の葉書が届いた。「浜君は頑張っている。チームに貢献している。もう少しでレギュラーというところまでできている」と書かれていた。両親はとても喜んでいて。厳しさの裏に心配りのある優しい方だった。

その年、初めて公式戦に出場でき、関東大学対抗戦を全勝優勝。大学選手権決勝では、故・平尾誠二さん率いる同志社に惜敗したが、満足のいくシーズンだった。引退を考えていた頃、上田さんからの電話が鳴った。「浜、また出たくないのか。チームに貢献できることがあるだろう」。その一言で、5年目も続けることを決意した。結果、大学選手権で明治と同点優勝、日本選手権ではトヨタ自動車を破り、慶應は初の日本一となった。素晴らしい形でラグビー人生を終えることができた。

卒業後、富士フイルムに入社し、6年半の工場勤務を終えて東京に戻ったある日、慶應ラグビー部の総監督となった上田さんから再び電話があった。「浜、コーチをやれ」「自分には無理です」「必ずお前の会社人生に役立つ。会社には手紙を出す」（ガチャン）。その言葉に背中を押され、母校のコーチを引き受けた。卒業後もずっと見守ってくれたのだと思い、目頭が熱くなった。

「人の可能性を信じ、厳しさの中に温かさを持ち、チームのために尽くす」—— その姿勢が私の原点だ。多くのことを学ばせていただいた上田さんには感謝しかない。

今も毎年、谷中霊園にある上田さんのお墓に報告に行っている。人には必ず良いところがある。そこを見つけ、信じ、伸ばしていくこと。上田さんの教えを胸に、私もそうありたいと心に誓っている。

▶▶ 次回リレートーク

木村 美代子

キングジム
取締役社長